

自由主義と資本主義

アメリカに駐在するメル友が、アメリカの広大なオレンジ園を見て、どうやって収穫するのかに疑問を持っていたが、知人から「低賃金で雇える人たち（恐らく不法移民でおもには、メキシカンや黒人）を大量に雇っているよう」との話に、アメリカの物価の安さのしくみと、あの広大さを見ると、日本なんて到底太刀打ちできるものではないと実感した、というメルへの私の返信から。

『資本主義の成り立ちの問題点ですよね。日本の企業の中国、東南アジアへの進出もそのためでしょう。

また、資本主義は生産しなくては利潤があがりません。生産を続けるためには、一方で消費がなくてはならない。

最大の消費は、戦争。故に、「資本主義を追い求め続ける限り、戦争は必要悪。」と以前誰かに聞いたのを思い出しました。（まさか、そのために、アメリカが今回の同時多発テロ事件を、「これは、戦争」と言い出したのではないとは思いますが。）

一方、資本主義に変わるものとしての社会主義、共産主義は、その社会を形成する個々の人々の自由を抑圧したが故に、ロシアが崩壊し、また中国は一部で資本主義を採用しだしており、その社会体制の限界が明らかになりつつありますよね。

資本主義を支えている低賃金で雇える人達も近い将来、個々の人間としての自由な発言と要求をしてくるでしょうね。この一見矛盾する自由主義と資本主義を融合させる新たな世界観って、何なのでしょうね。どうも、僕の世代では、その答えは出ないようですね。

本当に、これからの世界の人々は、周りの国々や、色んな主義を持つ人々が共に生きて行ける考え（主義、または、世界観）を生み出すのでしょうかね。』

（2001年09月23日記）